



Q. 予防医療への更なる取組みで、医療費抑制を A. 任意予防接種は9割公費助成

今村 正 議員

Q 高齢者支援と医療費増大への対策は重要な課題である。以下の点を聞く。

- ① 予防医療に向けた、現状と今後の対策は。
- ② がん検診率向上のためすべてのがん検診の無料化と、乳がん・子宮頸がん検診無料クーポン券配布の恒久化は。
- ③ 子宮頸がん・ヒブ・水疱瘡・おたふくかぜワクチン接種の助成拡大は。

④ ポランティア・お元氣ポイント制度の導入は。

⑤ 高齢者健康トレーニング事業の開始は。

⑥ ジェネリック医薬品の利用促進と、「希望カード」の発行は。

⑦ 国民健康保険証のカード化の時期は。

⑧ つつ病対策に有効とされる認知行動療法が健康保険適用になった。患者の増加に対して研究・研修を行い普及啓発に努めては。

A ① 予防医療での町の新たな取組みの予定はない。

② 健康診査・がん検診等の受診費用の一部自己負担は、現行どおりお願いする。なお、国庫補助制度による女性特有がん検診の無料クーポン券は、5年経過後での国の施策の動向をみて、制度継続を考える。

③ 子宮頸がん予防ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの任意接種に対しては、新年度当初の早い時期に、接種費の9割の公費助成を開始する。また、水ぼうそう・おたふくかぜワクチン接種は、国での検討

結果等を踏まえ、公費助成の在り方を検討する。

④ 地域での介護支援ボランティアの有効性から、ポイント制度の調査・研究を進める。

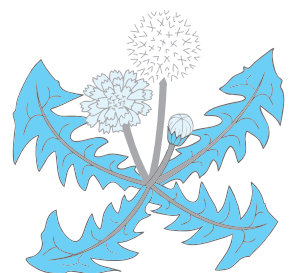
⑤ しいの木の現行の設備実態から、高齢者用健康トレーニング事業の開始は困難である。

⑥ 「ジェネリック医薬品希望カード」発行・配布については検討する。

⑦ 国保被保険者証のカード化は、次回の被保険者証更新時期、24年9月を

予定する。

⑧ つつ病に有効な認知行動療法は、現在、医師が治療した場合に、健康保険の適用があるため、心の健康相談の場を活用し、個別指導の必要な方へは、医師・臨床心理士の相談を受けることを勧奨する。



ジェネリック医薬品希望カード
医師・薬剤師の皆様へ

ジェネリック医薬品を希望します。

ジェネリック医薬品に関するご説明をお願いします。

ジェネリック医薬品カード